



令和3年度 学校評価

学校教育目標	
校訓 「創造・自律・誠実」 (1) 一人一人の生徒を尊重する教育の実践 (2) いじめや体罰のない安心安全な学校生活の保障 (3) 自発的、自主的な学習態度の育成 (4) 個性を生かす進路指導の充実 (5) 情操豊かな徳性と自律の精神の養成 (6) 心身の鍛錬と質実剛健の気風の育成 (7) 郷土を愛し、地域に学び、地域に尽くす心の育成 (8) 創造の意欲に燃える新たな良き校風の樹立	

重点目標 (中長期的目標)	総合評価
自立的規範意識を身に付けさせ、確かな学力を養うとともに、豊かな心で総合的な生活力を持った生徒を育成する。	個々の進路希望に応じたエリア制は学校評価アンケートで生徒の9割以上が前向きに捉えている。これに加え、基礎学力定着のための少人数習熟度別授業や、探究的学力を伸ばす授業づくりによって確かな学力養成に努めてきた。また、匿名性を担保した授業評価アンケートを通して生徒の学習に向かう姿勢を見直す機会をもつとともに、授業者の授業改善への動機づけも行い、ともに学ぶ体制を目指している。令和元年度に生徒会が主体的に進めた「松高スマホルール」も授業中の生徒の自立的な姿勢確立に寄与している。こうしたことをベースに生徒の学力向上と「生きる力」の涵養に努めていきたい。今年度は生徒会活動・部活動などを通じて、地域と連携した企画に参加することが昨年度来のコロナ禍で少なくなり残念であったが、これから地域とのつながりをどのようにしていか引き続き考えることができた年でもあった。また、昨年度同様コロナ禍で行事の変更、縮小も多くあったがその中でも生徒は前向きに取り組み、学校評価アンケートや学校評議員会の中でも生徒の取り組みが評価された。今後も、保護者や地域の方々との関わりの中で、生徒達が自ら考え、行動することにより、身だしなみや挨拶、マナーなどの規範意識、基本的生活習慣の更なる向上を図って行きたい。

重点目標 (今年度)	成果と課題	A	B	C	改善策向上策
① 生徒が個人として尊重される、安心・安全で活力ある学校生活を保障する。	学校全体としては落ち着いた雰囲気を持している。問題行動も少なく、生徒は学習、課外活動に前向きに取り組んでいる。また、本校として厳しく対処している暴力やいじめについては大きな事案は起こっており、普段からのきめ細やかな指導が成果を上げている。SNS上でのやりとりによるトラブルが発生しても早期対応が図られ、また未然に防止できた事例が多かった。日々変化するSNSの情報を教員が把握し、生徒にもその情報を提供できるようにしてはならない。またSNSによる人間関係上の問題を未然に防げるような指導を行うと共に、生徒が定めた「松高スマホルール3ヶ条」を通じて生徒間でも主体的に考えられるようにしていきたい。 外部との関わりにおける在校生の安全面での問題はなかったが、一部教室での現金紛失等が報告されたこともあり、今後も校内巡視等を継続し、更に生徒が安心して活力のある学校生活を送られるように、生徒、職員で取り組んで行きたい。			○	今後、さらに安全で活力ある学校生活を生徒たちが送るためにも、生徒会活動が引き続き活発になっていくことが重要である。そのために全校生徒が生徒会活動に興味を持ち地域の方々に発信し、連携を取りながら様々な活動に取り組むことができる環境を作っていく必要がある。クラブ活動ではそれぞれのクラブが目的をもって活動しているが、運動部、文化部に限らず、クラブ員の減少に歯止めがかからない部分があり、今後検討すべき課題である。 以前と比べ、外部との関係で問題が起こることは減少したが、SNS等の普及により生徒たちの交友関係は拡大している。そうした中でさまざまな、問題を未然に防ぐためにも、自己も他者も尊重できる意識や情報リテラシーの向上に学校全体で取り組む必要がある。 学校において、安全面・健康面の管理は必要不可欠である。職員が、生徒・保護者の声に真摯に耳を傾け対応していくことが大切である。
② 基礎学力の定着と、探究的学力の伸長を図る授業づくりをすすめる。	入学時より、基礎学力の定着と向上を企図し、英語・数学では、習熟度別授業によってよりきめ細かな指導を行っている。学力向上が大きな課題であるが、「基礎力診断テスト」の結果を利用して、職員研修会や職員同士の研究授業なども実施した。また、ICT機器も整備により、各学年・教科によって視聴覚教育を通じた単元理解、グループでの調べ学習からプレゼンテーションなど、課題解決能力やコミュニケーション能力を育成する探究型授業が充実した。今後も更なる授業改革を推進していきたい。			○	「基礎力診断テスト」の結果を細かく分析し、生徒の弱点を明確にして、基礎的な学力と読解力を向上させる取り組みを行ってきたい。また、習熟度別・エリア別授業を生かして、個々の進路実現のための基礎学力向上を図るとともに、探究的学力を身に付け、社会的な自立につながる授業に取り組んで行きたい。さらに、BYODを活用した調べ学習等を含め、コンピューターやインターネットなどの情報通信技術を活用したICT教育の充実を図ってきたい。
③ 生徒の個性と能力を伸ばさせるキャリア教育と進路指導を組織的に実践する。	新型コロナ感染対策を十分図りながら、進路指導室担当と各学年の進路指導担当が中心となって、堅実な指導体制をつくり上げ、進路指導に関する各学年の目標をほぼ達成できた。本年は産業視察、地域企業説明会等の参加型行事に参加することができ(コロナ禍により一部中止)、各団体等の協力によって「キャリア」学習の機会を確保した。インターンシップについては、夏季休業中に実施することができ、生徒たちにとって有益な就労体験であったといえる。来年度以降も、コロナ禍によるこれまでにない対応・展開が求められると予想される。関係諸機関・諸団体・各種上級学校にこれまで以上の協力を仰ぎ、連携強化を図り、生徒全員の進路希望実現を目指していきたい。			○	他校の進路指導担当との情報交換・連携も十分行っていく必要がある。新型コロナ感染対策に留意しつつ、関係諸機関・諸団体・上級学校との連携をこれまで以上に強化していく。特に参加型の産業教育行事は、生徒たちの職業選択・企業選択に有益であるので、可能な限り参加させていきたい。今後の進路指導は、コロナ禍等による過去に経験のない状況に応じ、臨機応変かつ迅速果敢な展開を心がけなくてはならないと考える。生徒たちが採用試験・入学試験を突破するのには何が必要かを状況の変化に合わせて考慮し、各学年会と進路指導室の連携により実効性のある指導を進めていきたい。
④ 生徒の主体的な活動を支え、自己肯定感を高め、生きる力を育む。	コロナ感染対策の呼びかけ等も含め日常的な生徒会活動を着実に展開することができている。このような継続的な活動が学校全体の活力やよい雰囲気づくりに繋がり、生徒の主体性・協調性・社会性を育成する礎ともなっている。「松高スマホルール3ヶ条」施行し毎月振り返ることでマナーを意識させると共に、安心・安全な学校を自分たちで作る課程を動機づけとしたい。そのためにも全校ディスカッションなどを通じて学校内の問題を生徒自身が意識し、関心を持ち、取り組むことが今後の課題である。			○	自らが学校・社会の構成員であるという自覚と課題認識を生徒に持たせることが、自治能力の育成に不可欠であると考えられるので、生徒会活動や学校行事を通して、スマホのみならず様々な問題意識をもって学校生活を見つめ直すよう指導していく。また、地域とのかかわりをより密にし地域の声を聞く機会を持たせることで、公共心と自助、共助の精神を養い、社会の一員としての当事者意識を高める指導を展開する。
⑤ 地域に開かれた学校づくりを進め、地域社会に貢献できる生徒を育成する。	地域の方々との交流活動等を通じ社会参加の意識や自治力の向上が図られつつある。また、「～花という笑顔を東北へ～」の総括や地域ボランティア活動においては新たな形を考え、模索する年となった。学校設定科目「キャリア探究」などでは優れた地域指導者を招聘して多方面からの講義をいただき、生徒の学習意欲および探究活動の向上につながった。			○	今後も、学校案内や学校活動情報誌(フールズバスケット)およびホームページ等を工夫し、学校の様子を広く地域に発信していく。また、地域からの要望等も聞きながら、開かれた学校づくりを継続していく。さらに、生徒自身の自発的、主体的な活動等を促すとともに、その受け皿となる地方自治体や企業等の連携も深めていきたい。今後の学校の目指す方向として、地域連携推進の窓口を明確にし協働のための組織の構成を検討していく必要があると考える。